
■■■ 北海道 CT 遠友 ser 会 mail ◆ No. 3 ◆ 2013/5/1

■■■

■ 北海道 CT 遠友 ser 会

■■■ <http://enyouser.umin.jp/> □

■■■

■ ■■■ □ □ ■ ■ ■■■ ■

■■■ ■ ■ □ □ ■■ ■ ■ ■

■■■ ■ ■ □□□ ■ ■ ■■■ ■

■□ CONTENTS □■

- (1) 【JRC2013 参加報告 世話人より】
- (2) 【営業マンレポート第 2 弾】
- (3) 【新連載 東芝 CT アプリからのワンポイントアドバイス】
- (4) 【お知らせ】
- (5) 【編集後記】

※このメールは等幅フォントでご覧ください。

●.....●

(1) 世話人より JRC2013 参加報告

◆ 「JSCT 設立記念講演会について」 札幌医科大学附属病院 平野 透

JRC の期間中の 4 月 12 日（金）に横浜市内の学会会場とは別な会場において、日本 CT 技術研究会 (JSCT) の設立記念講演会が開催された。

この研究会は金沢大学の市川勝弘先生が会長を務め、エビデンスベースの技術研究をとおしてその輪を広げる事、更に多くの研究業績を論文化する事を目的にしており、2 年後に学会へと移行する予定になっている。

講演会当日には北海道から沖縄県までの多くの地域から 110 名ほどの診療放射線技師、大学教員、保健学科の学生や関連企業の方が参加していた。

冒頭に市川会長から設立の理念や学会の目指すところ、事業内容や将来について熱のこもった講演があり、会長の JSCT に対する強い思いを感じる事が出来た。

特に CT に関わる多くの研究者の業績を論文として残せるように発表完結型ではなく、論文完結型の学会を目指し、論文作成をしやすくするための工夫やサポートも考えられていた。更に事務局より本年度の事業に関する事や入会方法等の説明があった。お二人の講演後情報交換会があり、他施設の方同士で会話が盛り上がり大盛況な設立記念講演会であった。

最後に JSCT の理事である東北大学の森 一生教授からの挨拶があり、その中で先生が核医学、MRI、治療等は学会があるのに CT には今まで学会が無く、当然設立しなければならなかった学会であるとお話があり、今後学会になる JSCT に期待を寄せていた。

第 1 回の学術大会は本年の 6 月 26 日(土)に広島大学病院で開催される。

興味のある方は是非参加して頂きたいと思っている。

◆「JRC 報告記」 国立大学法人北海道大学病院 笹木 工

本年二月に私が座長を担当するセッションに関する書類が学会事務局より送付されてきた。各演題の演者、題名、要旨が A4 用紙 1 枚に収められている。

学会からの説明文を読み終わり、次をめくるとなぜか読みづらい。

それもそのはず、英語で書かれてあった。しかも要旨が途中で終わっている。

そのため事務局とも何度か連絡をとり、ようやく全文をいただいた。

演者は中国人で女性であることもわかった。事前の連絡はなかったが、初めて英語で座長を担当することになった。

大変流暢な英語を話される方で、事前にスライドを確認し概要を把握していたが全く聞き取ることができなかった。

「自分はダメだな」と思いながら、演者にあらかじめ準備した 2 つめの質問をした後に悲劇が待っていた。

演者が「What?」と言ったのである。

コアベータにインデラルを併用しても一向に心拍数が下がらない状態になり、さすがの AquilionONE ViSION Edition でもブレブレの冠動脈だったに違いない。

自分の言ったことが通じないという事実に気づくにはそれほど時間はかからなかった。違う言葉で言い換えて（かなり辿々しい）、なんとかその場をしのいだ。他の演者が発表中に中国人ご一行様が退室されるのを座長席からみかけたとき、あまりにも不甲斐ない座長で申し訳ない気持ちで一杯になった。

中学時代から続いている英語アレルギーに加えて、中国人アレルギーが加わった JRC であった。

◆「英語発表！頑張りました」 北海道社会保険病院 山口 隆義

今年の JSRT では、ここ数年の国際化推進の一環として、一部の口述一般演題を英語プレゼンテーションとし、通常の日本語発表や CyPos に対しても、英語によるスライド作成を推奨していた。

私自身、ここ半年間で検討していた研究が複数あったため3演題を登録したが、そのうち1演題が英語口述として選ばれた。

辞退も可能ではあったが、内容的にはそれほど複雑な研究結果ではなかったので、興味本位でチャレンジする事にした。スライドや発表原稿の添削に関しては、学会からのサポートがあったので、たたき台となる英語原稿を準備するだけで良く、発表の準備は比較的容易であった。

しかし、RSNA でも見受けられる日本人の英語棒読みだけは避けたいと考え、電子辞書をフル活用し、発表原稿に自分だけが理解できる記号を書き込み発表に挑んだ（RSNA2010の口述発表と同じ作戦）。

私の結果はさて置き、今回英語で発表された多くの演題は、今後の RSNA や ECR にきっと submit され採択されるものと感じた。

その後、野毛にある格安中華料理店では、この遠遊会メンバーを中心に、国際化に関する熱い議論が深夜（AM2:00）まで続いた。意見は様々で、宴会で簡単に結論の出せるテーマではないが、RSNA や ECR に加えて第3極となるアジア圏の学術大会も注目されつつある。そう考えると、「アジアから世界へ」という将来像も想像出来るのではないだろうか？

◆「JRS2013 CT コロノグラフィートレーニングコースに参加して」

小樽掖済会病院 平野 雄士

今年度のCTCのトレーニングコースは4月11日木曜日の午前10時から午後6時まで、丸一日かけて行われた。

2007年よりJRCの企画として開催されていたが、本年はJRSの企画として実施され、第7回目となる。昨年の保険収載も後押ししてか、CTCの技術が目新しいものではなく、ごく一般的な放射線の技術として参加者全員に浸透しているようであった。

プログラムはJRS大会長の本田浩先生の挨拶に始まり、秋田赤十字病院の山野先生の講演、Mayo ClinicのJohn M. Barilow先生の講演、飯沼先生、五十嵐中先生のCTCの費用対効果についてのランチョンセミナーと続き、あらゆる角度からのCTCの現況について報告があった。

その後、WS各社の担当よりハンズオンに向けてのプレゼンテーションがあり、医師と技師がそれぞれの部屋に分かれ、実機によるトレーニングが始まった。

技師のトレーニングは6社（GE、ザイオ、AZE、FUJI、東芝、インフィニット）のWSを用いて行われた。それぞれの表示法に関しては集約されつつあるが、操作性は大きく異なっている。それを一堂に会して行うので、最初は参加者も不慣れな機器の取り扱いに手間取っていたようだ。

セッションを4つに分けたプログラムのうち、3つ目のセッションくらいになると、操作にもだいぶ慣れ、読影時間も大幅に短縮されていった。

セッションごとに、特徴的な症例を数多く見ていただけたと思う。最初は講師を務めた私も含めてやや緊張した雰囲気であったが、後半は和気あいあいの雰囲気に変化した。

ハンズオントレーニングは学会発表とは違い、より実践的な形で情報交換が行われるので参加者にとってメリットの多い手法であることを実感した。

今後も継続していけたらと思います。

募集は一日で埋まってしまう状態ですが、ご興味のある方は次回、是非参加してください。詳細は下記URLでレポートされています。ご確認願います。

<http://www.innervision.co.jp/report/item/2013/jrc2013/ctctraining>

◆「今年は ITEM をメインに！」 耳鼻咽喉科麻生病院 宮下 宗治

もし JRC 1) に参加ポイントがあって、JAL のマイルに交換できたら参加意欲倍増！
なんて思いつつ・・・

今回の横浜は、故あって ITEM 2)に例年より多くの時間を割いた。

CT のハードに関しては、東芝メディカルシステムズ社（東芝）製「New Aquilion
PRIME」3) 以外は、目新しいニュースは見あたらなかった。

今回私が注視したのは、“CT における操作性の向上” をキーワードとしたリサーチで
ある。

装置の進歩は留まるところを知らず、呼応して臨床ニーズも高度化している。

結果として複雑化するスキャン、画像再構成が操作者のストレスを増加させている。

当然メーカーサイドも同じ認識を持っているようで、各社からワークフロー改善の提案が
成されている。（詳細は 6 月発刊予定の「映像情報メディカル増刊 Multislice CT 2013
BOOK」に掲載するので、興味がある方は御一読を！）

特筆すべきは従来のビギナー向けのアシスト機能とは一線を画す、検査クオリティ向上を
前提としながら、操作者の負担軽減も可能なアプリケーションが次々と提案されているこ
とである。東芝が誇る SureIQ も同じ思想の元に開発されたものと思われるが、今後も更な
る進化を期待すると共に他社の動向に気を配り、ビギナーから上級者まで満足できる装置
作りを目指して頂きたい。

また各種アプリケーションの理解と有効活用を促すために、北海道 CT 遠友 ser 会が多く
の会員によって支持され、普及機、プレミアム機を問わずに有益な情報発信源となること
を期待する。

参照：意外と知られていない JRC と JSRT（技術学会）、ITEM の複雑な関係は下記 1, 2) で
雲散霧消

1) 一般社団法人 日本ラジオロジー協会ホームページ

<http://www.j-rc.org/index.html>

2) ITEM in JRC 2013 国際医用画像総合展ホームページ

http://www.jira-net.or.jp/item2013/item_2013.html

3) ニュースリリース

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/company/news/130403.html>

◆「夜の JRC」 勤医協中央病院 船山 和光

“冬があり夏があり 昼と夜があり 晴れた日と 雨の日があって ひとつの花が咲くように 悲しみも 苦しみもあって 私が私になってゆく (by 星野富弘)”

昼があって夜があり、夜があるから昼がある。JRC にも昼と夜がある。開催前日に横浜入りする者もいる。誰とも無く連絡をとりあい、馬車道あたりで飲んだりする。灯りに集まる昆虫のように・・・そして、有名兄弟中華料理人の弟の店で飲んだりする。値段高いね、なんて言ったりする。写真をお願いしたりする。そう、それが夜の JRC。

演題発表が終了する。何となく皆集まる。中華街行っちゃう、なんて言ったりする。四川の店行って、口を痺れさせたりする。辛い物苦手な大先輩に追加のマーボを取り分けて怒られたりする。だって、それが夜の JRC。

何故か私の部屋に集まったりする。隣の人に、壁“ドン！”ってやられたりする。うっ、それが夜の JRC。

今日はどこ行く、なんて言ったりする。野毛に繰りだしたりする。またまた、中華食べたりする。ここは安いね、と言ったりする。何故かグラス持たされて、夜の野毛の街を歩かされたりする。テーブルの向かいで、熱い議論を繰り広げたりする。決して、交わることのない議論を続けたりする。それを眺めたりする。そう、これが夜の JRC。

“二人は昼も夜も聖書を読んだ。だが私が白と読んだところをあなたは黒と読んだ (by ウィリアム・ブレーク)”

同じ事象でも、観察者によって違って見えたりする。それを議論、検証したりするのが学会だったりする。そう、それがまさに JRC。昼も夜も熱いのが JRC。

次は、あなたも参加してみちゃったりする？



(2) 営業マンレポート第 2 弾

◆松尾 幸一（まつお こういち） 担当エリア：道東地区

【 担当営業から 】

釧路で営業を担当する入社 27 年目の松尾と申します。

札幌から函館、帯広、釧路と経験してまいりましたので、このメルマガをご覧いただいている道東地区以外の方にも、私が随分お世話になった方がきっといらっしゃると思っております。

趣味はゴルフを少々。冬の間のため込んだ脂肪を燃やすべく、今シーズンも少ない休み（会社への愚痴ではありません）をフル活用して駆け回ります。

私の自己紹介はさておき、今回は釧路地区における中核病院の一つである釧路赤十字病院様をご紹介します。

当社とはお付き合いも多く、X線TV、一般撮影装置はもちろんCT、MR、RI、アンギオ等の撮影機器、RIS/PACSについても東芝装置をお使いいただいているお客様です。CTは2011年からAquilion PRIMEの北海道内1号機が稼動しております。

【 お客さま紹介 】

総合病院釧路赤十字病院 北海道釧路市新栄町 21-14

ホームページ：<http://www.kushiro.jrc.or.jp/>

・・・続きをご覧頂く場合は、こちらよりご覧ください。

http://enyouser.umin.jp/_src/sc580/kushiro_redcrossHP.pdf

◆占部 浩樹（うらべ ひろき）

担当エリア：札幌市内（厚別区・白石区）千歳・胆振・日高

【 担当営業から 】

入社6年目（結婚2年目）の占部と申します。最近のマイブームは火鍋です。

お目にかかれていない方も多くいらっしゃるかと存じます。勉強不足の私のような者の記事が皆様に読まれると考えるだけでキーボードを打つ手が震え文面にもにじみ出ているかと思いますが、今回皆様にはフィルタのかかっていない生のユーザー様のご意見をお届けしようと思っております。

【 お客さま紹介 】

医療法人社団 三樹会病院 北海道札幌市白石区東札幌 2 条 3 丁目

ホームページ : <http://www.sanjukai.or.jp/>

・・・続きをご覧頂く場合は、こちらよりご覧ください。

http://enyouser.umin.jp/_src/sc579/sanjyukaiHP.pdf



(3) ☆新連載 東芝 CT アプリからのワンポイントアドバイス☆

日頃頂く CT 装置の操作・臨床のご質問の中からピックアップして毎号掲載いたします。

◆MPR のスライス厚を任意に設定できますか？

http://enyouser.umin.jp/_src/sc532/MPR_slicethickness.pdf

◆クリック数を省けるかも？ I-selector 上でのシリーズ並び替え方法

http://enyouser.umin.jp/_src/sc533/Batch-series-move.pdf

「～の方法教えて欲しい」「こんな便利な方法あるよ！」などのご意見がございましたら、メール下記にある「お問い合わせ」URL よりご連絡ください。
このコーナーでご紹介させていただく場合がございます。



(4) お知らせ

◆ランチョンセミナー情報

東芝出展展示会・学術セミナーのご案内

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/event/index.html>

◆東芝から ITEM2013 報告

ITEM 2013 Booth Report はこちら

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/event/jrc2013/boothreport/index.html>

ITEMにて発表させていただきました、New AquilionPRIME の情報はこちら

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/company/news/130403.html>

次号より稼動状況など掲載させていただく予定です。

◆画論 The Best Image 2013 について

東芝メディカルシステムズは、画像診断技術の発展と医療への貢献を目的として

「画論 ザ・ベストイメージ」を今年も開催いたします。

「画論 ザ・ベストイメージ」は、診断・治療に必要な画像のクオリティはもとより、被検者へのメリット、撮影・処理技術の工夫等、臨床的価値（クリニカルバリュー）を総合的に判断することによる「最良のイメージ」の選定という試みです。

本年も多くの方々からご応募を頂きますようお願いいたします。

詳しくはこちら

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/event/bestimage/2013/index.html>

画論 The Best Image 20 年の歩み CT

http://enyouser.umin.jp/_src/sc581/history_of_Garon.pdf



(5) 編集後記

振り返れば、タイのバンコクに行ったのは昨年6月で、ASCI (Asian Society of Cardiac Imaging) に演題登録してからもう1年が経過した。今年には北京での開催であり、そろそろ演題内容を考える時期なのだが、ご承知の様に空気清浄機必須の環境との事、なんとなく大事をとって見送る構えである。

本来、タイのベストシーズンは乾期の1~3月で、6月は雨期にあたっていたものの、昨年の旅程中は天候に恵まれ、学会会場への移動は勿論、観光も不便なく満喫出来た。(ちなみに、これはプライベートな夏休み旅行である)

出発前に、東南アジア圏の旅行に詳しい後輩技師から「バンコクに行くならプー

パッポンカリーを食べてきて下さい！」とのアドバイスを貰い、ガイドブックを参考にプーパッポンカリーのお薦め店である“ソンブーン”という店をチェックした。

実際にバンコクに行ってみると、暑さはハンパなく、北海道民の思考回路など簡単に麻痺してしまう。予定していた午前中の寺院観光を終え、タクシーを捕まえ“ソンブーン”と伝えて、冷房の心地よさに浸っていた。しばらくすると、運転手に“ソンブーン”と言われて、タクシーを下ろされた。レストランには違いないが、人気店のわりにはお客が少ない感じである。しかし、冷房の効いた店内は“オアシス”であり、メニューの冒頭にもプーパッポンカリーを発見した。共に注文したビールで喉を潤しながら、しばらくメニューを眺めていると、店名の“ソンブーン”の後ろに“ディー”とついていた。

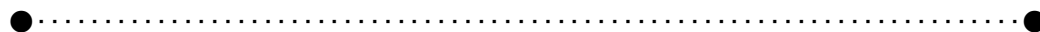
「もしかして違うかも」と思い、これまでのやや人気のない道路や少ない客数から冷静に考えると、やはり「だまされた」という結論になった。

ホテルに帰って、改めてガイドブックを確認すると、地図上の隅に「ソンブーンの偽物でぼったくりの店、要注意！」と記されていた。先月のメルマガと同様、リスクマネジメントの問題である。負のオーラがタイにまで・・・。

翌日は、タクシーには頼らず、元祖“ソンブーン”に無事辿り着き、本物のプーパッポンカリーを堪能し、タイ最後の夜を満喫した。

帰国後、後輩技師にこの度の出来事を報告したのだが、「そんな料理の話、しましたっけ？」って、すでにイエローナイフのオーロラツアーに向けて、彼女の思考は、暑い東南アジアから極寒の北極圏に移っていた。

遠友 ser 会世話人 T・Y



このメールマガジンは、北海道 CT 遠友 ser 会のホームページから会員登録をされた皆様へ配信しております。もし、お心当たりが無く配信を希望されない場合には、大変お手数でございますが下記の配信停止手続きをお願い申し上げます。ご登録情報の変更は、お手数ですが以下のページより手続きをお願い致します。

■配信停止

<https://reg26.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mir-mcpao-5da80dee47fea249f2eef2657cc89444>

■登録情報変更

<https://reg26.smp.ne.jp/regist/is?SMPPFORM=mir-mcpam-9a9db7c7d78cda90ff60704a2ce7d354>

.....
<お問い合わせ>

本メールアドレスは発信専用です。返信いただきましてもご回答は差し上げられません。お問合せやご要望等は以下のページからお願い致します。

http://enyouser.umin.jp/inquiry_faq.html

.....
<個人情報保護方針>

弊社の個人情報保護に関する考え方については、下記のページをご覧ください。

<http://www.toshiba-medical.co.jp/tmd/utility/privacy.html>

.....
編集・発行

- ・北海道 CT 遠友 ser 会
- ・東芝メディカルシステムズ株式会社 北海道支社
担当（お問合せ先）： 森 淳一 ， 前田 芽衣
TEL： 011-785-3131